

取組の概要と推進委員会からのコメント

整理番号

10

申請担当大学 (連携大学)	札幌医科大学(計4大学) (北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学)
プログラム名	人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン
事業推進責任者	塚本 泰司(札幌医科大学学長)

取組の概要

近年のがん診療ではゲノム情報の重要性が高まり、これまで十分ではなかった希少がんや小児・AYA世代のがんに対する対応が求められるなど、新時代の医療、患者の視点に立った多様なニーズに応える医療の必要性が高まっており、こうしたがん医療を担う人材の養成が急務である。また、広大な北海道においては、患者がそれぞれの地域での生活を営みつつ質の高いがん医療を受けることを可能にするため、医療の機能集約と均てん化の両立が求められる。

本プログラムでは北海道内の医療系大学が先進的に進めている遺伝医療、がんゲノム医療、遠隔医療、多職種連携診療の英知を結集し、道内の中核医療機関とも連携して、大学院生はもとより地域の医療機関で研修する医師やがん診療にかかわる医療従事者に高度な専門教育を提供し、地域横断的、専門職横断的、臓器(がん種)横断的な包括的がん医療を担う人材および次世代のがんゲノム医療を担う研究者を養成する。

推進委員会からのコメント

○：優れた点等、●：改善を要する点等

- グループ内での意思統一が行われており、目標に向けて効率的な連携体制の構築や機能的なプログラムが計画されている。
- がんサバイバーによる講義の新設は、がん診療において多面的に有用と期待される。また、がんサバイバーなど関連団体との評価体制の構築等の共同活動は、社会医学の面からも評価できる。
- グローバルな視点から、院生の海外留学支援やアジアへの視察やアジア留学生受け入れは、事業の国際性に鑑みて有効である。
- 女性研究者の支援、女性教員の人材養成ボードへの参画など、キャリア教育への注力は今後のがん医療環境構築に貢献が期待される。
- インテンシブコースの養成人数が3,440名とされるなど、医療過疎地を含む北海道においてがん医療の向上に繋がり得る効果が期待できる。
- インテンシブコースの内容について、課題をより具体的に抽出したきめ細かいプログラムとなるよう検討する必要がある。
- 質的目標達成のために、大学院生や患者など当事者団体にアンケートによるフィードバックからプログラムの改善改良を目指すようであるが、アンケート内容が多岐・多彩と思われ、その実施と分析には一層の工夫と効率性の検討が望まれる。
- 北海道における癌死減少を意識したゲノム医療のインフラ・教育・啓蒙などについて短期的、長期的展望の検討が望まれる。
- がん患者の就労や、島嶼・山間部など医療過疎地へのがん実地医療やがん教育などの視点のほか、老年医学的視点も加えた高齢者の特性に関する教育体制構築についても検討が望まれる。